

# 電動車いすについて

## 電動車いすの特徴

- 道路交通法において歩行者扱い
- 運転が容易
- 免許不要
- 介護保険の対象品目



ジョイスティック型



ハンドル型

## 電動車いすの現状

- 電動車いすの直近の販売台数は、約24,000台(2018年度出荷)であるが、近年増加傾向にある。
- メーカーのアンケート調査の結果によれば、免許返納者の購入者数が増加しつつある状況にある。
- 電動車いすについては、介護保険制度を活用したレンタルも多いため、一般的には歩行が難しい高齢者や身体障害者が主に利用しているモビリティという印象が強い。

## 今後の可能性

- **免許返納後も一人で使える移動手段であることの周知により、要介護者だけでなく足腰の不自由な高齢者の交通手段として利用したり、行動範囲を広げることを通じて、高齢者の社会活動促進や健康増進の可能性**がある。
- また、今後の利用場所拡大の可能性として、空港やショッピングセンター等におけるシェアリングサービスと自動運転、AI等を融合させた、MaaSの一部としても普及が進む可能性がある。

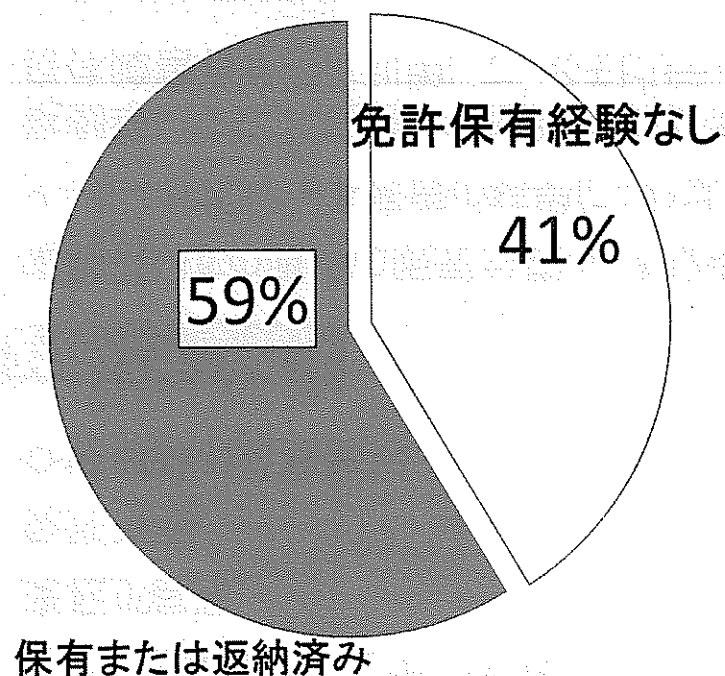
## その他重要な論点

- 事故防止の観点から**安全対策を推進**。

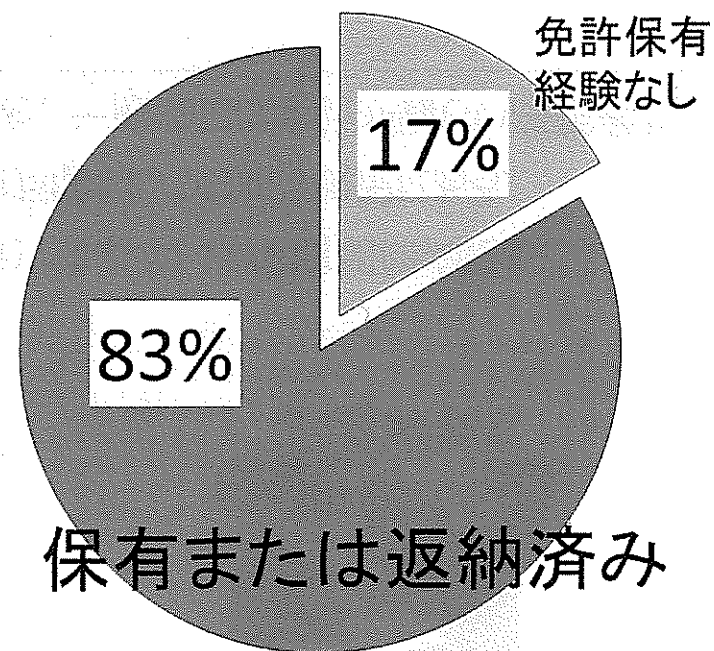
## 【参考1】スズキセニアカー購入者と運転免許保有の関係

- 近年免許返納者による購入者が増加しつつある

2015年ごろまでの購入者

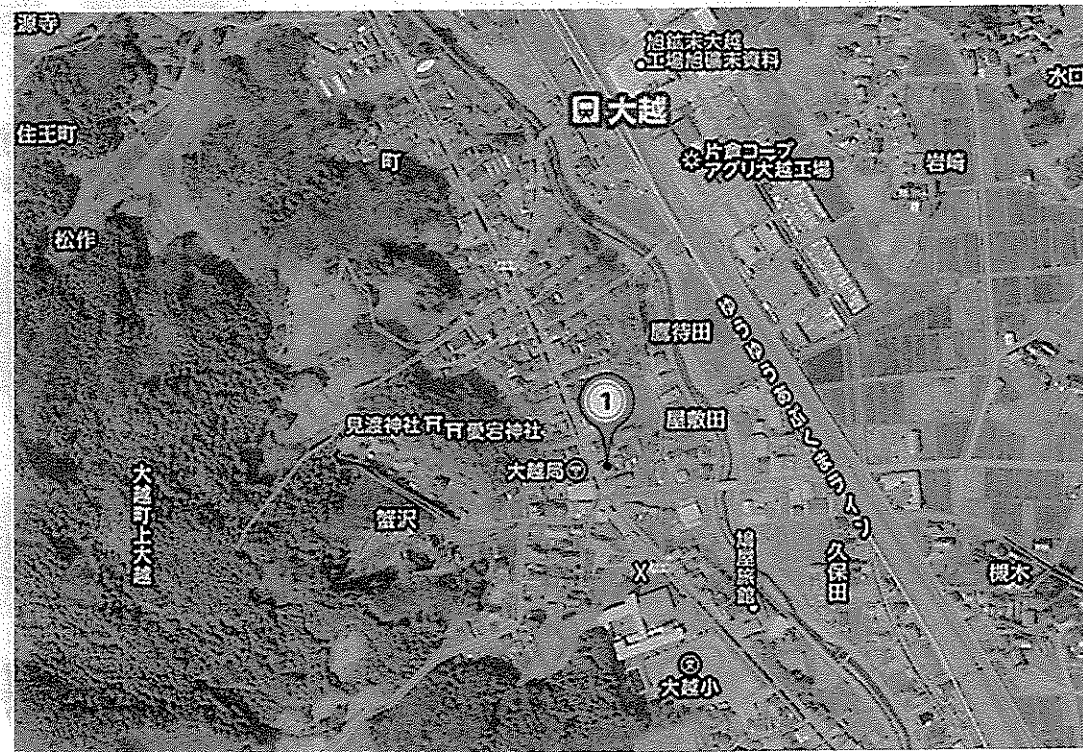


2016年以降の購入者



## 【参考2】日常生活の移動のための必需品として利用される

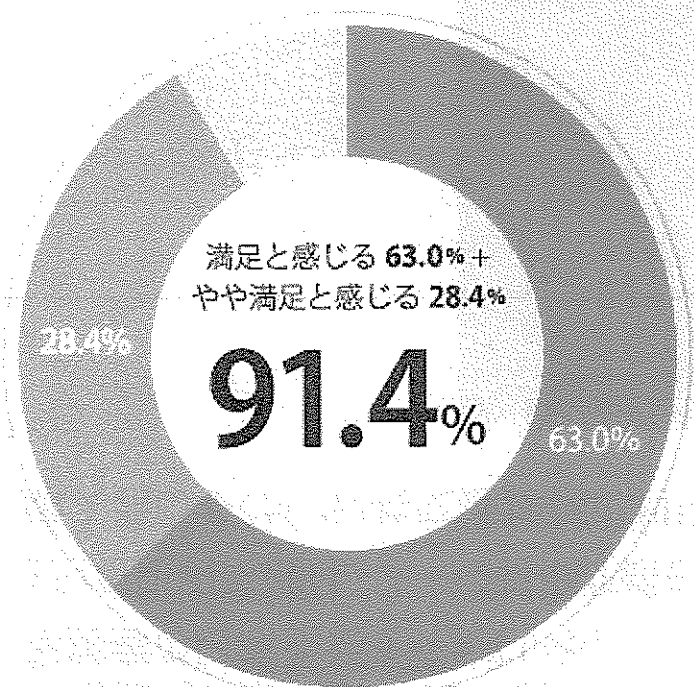
- 過疎、高齢化の進む地方での利用が多く、日常生活を支えている
- スズキセニアカーの購入者の3/4が80才以上の高齢者。
- 利用目的の第1位は「買い物」、2位「散歩」、3位「病院へ行く」、4位「農作業に行く」であり、高齢者の日常生活を支えている。
- 1日の使用時間は、1～2時間が最も多い。半径6キロメートル以内の生活圏で活用される。
- 購入者の多くが、公共交通機関の利用機会の少ない地方都市郊外、中山間地である。



使用環境の代表例  
(里山・農地・河川に囲まれる集落)

## 【参考3】購入後の満足度

- 購入者の満足度は高く、継続して利用することを希望する利用者も多い。



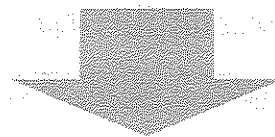
スズキセニアカーお客様調査 2018年1月現在、スズキ調べ。

継続して利用することを希望する

96.9%

### <課題>

- 購入後の満足度は高いのに普及が進まない



- 免許返納後の安心で便利な移動手段であることを告知する必要がある。
- 高齢者だけでなく、子・孫世代にも告知。